

表1 条件文の4つの用法

用法	前件に対する関与	後件に対する関与
標準的条件文	なし	なし
関連性条件文	なし	話し手が真であると信じる
事実的条件文	話し手以外が真であると考え／述べた	なし
譲歩条件文	なし	話し手が真であると断定する
譲歩の副詞節	話し手が真であると信じる	話し手が真であると信じる

## 復習

### (1) 標準的条件文 (standard conditional)

- a. 雨が降らなければ、外で食べます。
- b. テレビ番組表が正しければ、今晚『魔女の宅急便』をやりますよ。
- c. 誰も食べていなければ、戸棚に煎餅がありますよ。

### (2) 関連性条件文 (relevance conditional) (「ビスケット条件文 (biscuit conditional)」とも)

- a. ジブリ映画がお好きなら、今晚『魔女の宅急便』をやりますよ。
- b. もし食べたければ、戸棚に煎餅がありますよ。  
There are biscuits on the sideboard if you want them. (Austin 1956)
- c. 言って差し支えなければ、あんまり乗り気じゃなさそうだね。
- d. He's not the sharpest knife in the drawer, if you know what I mean.

### (3) 事実的条件文 (factual conditional)

- a. A: 課題の論文、すごくつまないんだけど。  
B: あたしは読んでないけど、そんなにつまらないんだったら、読むのやめなよ。
- b. A: うちの彼氏、すごく頭いいんだよ。  
B: え、そうなの？そんな頭いいなら、あんたと会話成り立たないでしょ。

### (4) 譲歩条件文 (concessive conditional)

- a. もしあなたが地球上で最後の男性だったとしても、私はあなたとは結婚しません。  
I wouldn't marry you if you were the last man on EARTH.
- b. もし死ぬことになったとしても、私はこのプロジェクトを成し遂げるつもりだ。  
I'm going to finish this project (even) if it KILLS me.

- (5) Lewis (1975), Kratzer (1986)
- a. 条件文の前件は量化子の制限部
  - b. 条件の意味は、量化構造に由来
  - c. 顕在的な量化表現がない場合は、「ならば／if」があることにより、聞き手はデフォルトの量化構造（主に認識・必然性）を用いて解釈
- (6)
- a. 一生懸命勉強すれば、どんな学生も成功する。  
Every student will succeed if he works hard.  
[all  $x$ : STUDENT( $x$ )  $\wedge$  WORK\_HARD( $x$ )] SUCCEED( $x$ )
  - b. テキトーにやっていたら、どんな学生も成功しない。  
No student will succeed if he goofs off.  
[no  $x$ : STUDENT( $x$ )  $\wedge$  GOOF\_OFF( $x$ )] SUCCEED( $x$ )
- (7)
- a. 仕事に来なかったなら、ジョンは病気に違いない。 (認識・必然性)  
[all  $w$ : ( $w$  は私が現実世界について知っている事柄と整合する)  $\wedge$   
( $w$  では、出来事が通常のあり方に限りなく近い形で起こっている)  $\wedge$   
( $w$  では、ジョンは仕事に来なかった)] SICK( $j$ ) in  $w$
  - b. 仕事に来なかったなら、ジョンはクビにしなければならない。 (義務・必然性)  
[all  $w$ : (現実世界の関連する状況が  $w$  でも成り立つ)  $\wedge$   
( $w$  では、関連する権威の要請が限りなく完璧に満たされている)  $\wedge$   
( $w$  では、ジョンは仕事に来なかった)] FIRED( $j$ ) in  $w$
- (8) 正午に出たなら、ジョンはもう家だ。  
If John left at noon, he's home by now. (認識・必然性「～のはずだ」と解釈)  
[all  $w$ : ( $w$  は私が現実世界について知っている事柄と整合する)  $\wedge$   
( $w$  では、出来事が通常のあり方に限りなく近い形で起こっている)  $\wedge$   
( $w$  では、ジョンは正午に出た)] HOME( $j$ ) in  $w$  (発話時に)

## 1 反実仮想条件文 (§19.6)

- 反実仮想 (counterfactual) の条件文の意味は、単純に前件を量化表現の制限部分にすることで得られない。
- 仮定条件文 (a) は明らかに真であるのに対し、反実仮想条件文 (b) はそうでない。

- (9)
- a. If Shakespeare did not write *Hamlet*, someone else did. (仮定)  
「もしシェークスピアが『ハムレット』を書いたのでなければ、他の誰かが書いたのだ。」
  - b. If Shakespeare had not written *Hamlet*, someone else would have. (反実仮想)

「もしシェークスピアが『ハムレット』を書いていなかったならば、他の誰かが書いていただろう。」

- (10) a. If Oswald didn't kill Kennedy, someone else did. (仮定)  
 「もしオスワルドがケネディを殺したのであれば、他の誰かが殺したのだ。」  
 b. If Oswald hadn't killed Kennedy, someone else would have. (反実仮想)  
 「もしオスワルドがケネディを殺していなかったならば、他の誰かが殺していただろう。」

(11) 仮定条件文 (9a) の意味

[all  $w$ : ( $w$  は私が現実世界について知っている事柄と整合する)  $\wedge$   
 ( $w$  では、出来事が通常のあり方に限りなく近い形で起こっている)  $\wedge$   
 ( $w$  では、シェークスピアは『ハムレット』を書かなかった)]

WRITE(someone else,  $h$ ) in  $w$

- a. 「私が現実世界について知っている事柄」  $\rightarrow$  『ハムレット』という作品が存在する  
 b. 「出来事が通常のあり方に限りなく近い形で起こっている」  $\rightarrow$  文学作品は作者がそれを書くことにより存在し始める

- 反実仮想条件文 (9b) では、(11a–b) が成り立たない可能性がある。
- 現実世界ではなく、関連する点に関し (in relevant ways)、限りなく現実世界に類似した (as similar as possible) 可能世界を考える必要がある。

(12) 反実仮想条件文 (9b) の意味

[all  $w$ : ( $w$  では、シェークスピアは『ハムレット』を書かなかった)  $\wedge$   
 (それを除けば、 $w$  は関連する点に関し、限りなく現実世界に類似する)]  
 WRITE(someone else,  $h$ ) in  $w$

- (13) a. カンガルーにしっぽがなかったら、ふらついて倒れてしまうだろう。  
 b. カンガルーにしっぽがなく、松葉杖を使ったら、ふらついて倒れてしまうだろう。

— $p \rightarrow q$  であれば、( $p \wedge r$ )  $\rightarrow q$  のはずだが、そうっていない。

これは、(b) で量化される可能世界の方が現実世界との類似度が低い (カンガルーが松葉杖を使うことがある) ためと分析できる。

## 2 発話行為条件文 (§19.7)

- 関連性条件文では、条件文の前件は後件が真であるための条件となっていない。
- 前件は、後件を発話することが適切 (felicitous) であるための条件を提示している。
- そのような条件文は、**発話行為条件文** (speech act conditional) と呼ばれる。

- 発話行為条件文の前件は、文の命題の一部ではなく、発話行為を修飾する。
- そのため、後件は断定 (assertion) 以外の発話行為の文でもよい。

- (14) a. 私の助言が欲しいというのなら、すぐに彼女にプロポーズしなさい。  
 b. 最近、正に会ったのであれば、彼は元気にはしていましたか？  
 c. お聞きして構わなければ（ですが）、お歳はいくつですか？

- (14) の文の前件は、後件の発話行為が会話の流れに関連していることを示す。
- (14c) のように、発話行為条件文の前件は、ポライトネスのための緩衝的表現 (hedge) にもなる。

### 真理条件的条件文と発話行為条件文の振舞いの違い

- 前件が文の命題の一部か発話行為の修飾要素かという違いにより、以下のような振舞いの違いが生じる。

- (15) 疑問文の返答に前件を入れられるか

- a. Q: 相続したら、投資に使いますか？  
 A: はい。相続したら、投資に使います。
- b. Q: お聞きして構わなければ（ですが）、お子さんはいらっしゃいますか？  
 A: はい。います。  
 #はい。お聞きいただいて構わなければ（ですが）、います。

- (16) 発話以外の動詞の補部に生起するか

- a. 直美はもし夫が飲んでいないなら、冷蔵庫にビールがあると {言った／思った}。  
 b. 直美はもし喉が渴いているなら、冷蔵庫にビールがあると {言った／\*思った}。

- (17) 後件が then で始められるか

- a. (i) If it does not rain, then we will eat outside.  
 (ii) If I see him again, then I will invite him.
- b. (i) #If I may be honest, then you are not looking good.  
 (ii) #If you are thirsty, then there is beer in the fridge.

- (18) 代名詞が束縛変項 (bound variable) になれるか

- a. (i) [Every student]<sub>i</sub> will succeed if he<sub>i</sub> works hard.  
 (ii) [No student]<sub>i</sub> will succeed if he<sub>i</sub> goofs off.
- b. (i) #[Every student]<sub>i</sub> should study trigonometry, if he<sub>i</sub> wants my opinion.  
 (ii) #[No student]<sub>i</sub> gave a very impressive speech, if he<sub>i</sub> doesn't mind my saying so.

- オランダ語やドイツ語など定動詞第二位 (verb-second; V2) の言語では、真理条件的条件文の前件は V2 に影響するが、発話行為条件文の前件はしない。

(19) オランダ語

a. 標準的条件文

(i) [Als Jan weg-gaat] **ga** ik ook weg.  
if John away-goes go I also away  
'If John goes away, I will go away too.'

(ii) \*[Als Jan weggaat] ik **ga** ook weg.

b. 発話行為条件文

(i) [Als je het wil weten] 4 **is** geen priem getal.  
if you it want know 4 is no prime number  
'If you want to know, 4 is not a prime number.'

(ii) \*[Als je het wil weten] **is** 4 geen priem getal.

(20) ドイツ語

a. 標準的条件文

[Wenn du mich brauchst], **bleibe** ich den ganzen Tag zu Hause.  
if you me need stay I the whole day at house  
'[If you need me], (only then) I will stay at home all day.'

b. 発話行為条件文

[Wenn du mich brauchst], ich **bleibe** den ganzen Tag zu Hause.  
if you me need I stay the whole day at house  
'[If you need me], I'll be at home all day (anyway).'

## 参考文献

- Austin, J. L. 1956. Ifs and cans. *Proceedings of the British Academy* 42:107–132.  
Kratzer, Angelika. 1986. Conditionals. *Chicago Linguistics Society* 22:1–15.  
Lewis, David. 1975. Adverbs of quantification. In *Formal Semantics of Natural Language*, ed. Edward Kennan, 3–15. Cambridge: Cambridge University Press.